

データの読み取りに基づく主張をパラグラフで記述する —型の習得を通じた意見文の作成—

1 科目名 国語総合（現代文）

2 単元名 表現

3 教材名 意見文を書く

4 単元の内容

単元の目標 と評価規準 ・評価方法	①単元の目標 ア 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめる (書く能力) イ 対象を的確に説明するために、適切な表現を考えて書く。 (書く能力) ウ 文や文章の組立てについて理解しようとしている。 (興味・関心・態度)		
	②単元の目標設定の理由 ・テキストから読み取ったことに基づく意見文を書くに当たり、生徒が抱える困難は以下の2点であると考え。 「どのような構成で書いたらよいか」 「どのような切り口で自分の意見をもったらよいか」 これらは、文章を書く上で必要とされる「形式」と「内容」の2面で捉えた課題と言える。 ・本単元は、パラグラフ・ライティングという欧米における世界標準の文章作成法を習得することを通して、意見文作成の抱える困難を解消することを目的とする。パラグラフとは、「主張（結論）→根拠→再主張」という型を、それぞれトピック・センテンス（TS）、サポーティング・センテンス（SS）、コンクルーディング・センテンス（CS）で構成するものである。その形式・構成にしたがって、文章を作成することをパラグラフ・ライティングと呼ぶ。データから客観的に読み取ったことを根拠として、そこから導き出される自分の考えがそのまま意見文の切り口になる。		
	③中心となる学習活動 ・データ（日本の食料自給率の推移、加工食品の安全性に対する信頼感と購買状況、食品自主回収の推移についてのグラフ）に基づいて得られた自分の主張・意見をパラグラフ形式で記述する。		
	④言語活動の工夫 ・「国語総合」のB「書くこと」における言語活動例に、「イ 出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと」とある。本単元では、グラフから得られた数的な変化や特徴を具体的に示すことが客観性のある根拠を明示することになる。 ・本単元で培われた能力は、2、3年次における「現代文B」の言語活動例エ「文章を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり報告書や論文集などに編集したりすること」にもつながると考えられる。1つの完結したパラグラフが複数のまとまりになることによって、序論・本論・結論のパラグラフを構成し、より長い報告書や論文となっていく。		
	⑤評価		
	評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応
関心 ・ 意欲 ・ 態度	①グラフから数値的な特徴を読み取ろうとしている。 ②グラフから読み取ったことをもとに自分の意見をもとうとしている。	観察 机間指導（ワークシート）	・他者の読み取りを参考にしながら、特徴的な変化に着目させる。
書く 能力	①自分の意見に基づくトピック・センテンスを作成することができる。 ②パラグラフの構造に基づいてアウトラインを作成できる。 ③根拠を明示して、自分の意見をパラグラフ形式で記述	観察（発表・ワークシート） 机間指導	・グラフから読み取った特徴の背景や要因について考えるように促す。 ・「主張→根拠→結文」に該当する部分を、文章ではなく項目で構成するように助言する。

	知識・理解	することができる。 ①パラグラフに関する基本事項について理解している。	観察（ワークシート） 机間指導	・「問答ゲーム」で習得した「主張→根拠→結文」の形式を参考にさせる。 ・他者の読み取りを参考にしながら、特徴的な変化に着目させる。
成果と課題	①意見文の書き方が分からなかった生徒に対して、基本の型を示したことで構成の仕方を知得させることができた。 ②自分の主張（意見）を上手くトピック・センテンスとして表すことができない生徒が目立った。グラフから読み取った客観的な変化や特徴から導き出される考察の深化に向けて、段階的な準備が必要である。			
アドバイス及び留意点	①最初に「主張（結論）→根拠→結文」の形式を用いて口頭で相手に説明できるようにすることが大切である。前もって、「問答ゲーム」を通して、相手の質問に対して、「私は～。なぜなら～からである。以上の理由により、私は～。」という定型で答える訓練は行っておくと効果的である。更に、トピック・センテンスを作成する時に、相手からの質問にも答える応答を繰り返しておくと、考えを深めていくことにつながり有益となる。 ②本単元の取組の前に、簡単なトピックでの問答や意見文作成の練習を行っておくとよい。			
小中学校との系統性	中学校・第3学年・B書くこと ア 社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めるとともに、文章の形態を選択して適切な構成を工夫すること。 イ 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと。			

5 単元の学習概要

時間	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応 ↓ 次時に注意すること
1	○パラグラフの構造とパラグラフ・ライティングのルールを理解する。 ○データから読み取ったことに基づいて主張・意見（結論）をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・パラグラフの基本構造とパラグラフ・ライティングのルールを理解する。 ・別紙グラフから読み取った数値的な特徴をワークシートにまとめる。 ・グループでの交流を通して得られた、他者の読み取りを参考にし、自身の読み取りをまとめ直す。 ・データから読み取ったことから導き出される「主張（結論）」を列挙する。 ・グループでの交流を通して得られた、他者の「主張（結論）」を参考にし、自身の「主張（結論）」を見直す。 【Bイ・言イ(イ)】 <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下の点について十分に理解させておく。 1つのパラグラフでは1つの論証のみとする。 形式は「トピック・センテンス」（パラグラフの冒頭に「主張（結論）」を置く）→「サポーティング・センテンス」（「主張」を裏付ける「根拠」を提示する）→「コンクルーディング・センテンス」（パラグラフの最後に再度「主張（結論）」を述べる）とする。 ・データから客観的に読み取った、数値的な特徴が「根拠」となり、サポーティング・センテンスとなることを理解させる。 ・今回は、日本の食料自給率の推移、加工食品の安全性に対する信頼感と購買状況、食品自主回収の推移についてのグラフをデータとして用いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パラグラフに関する基本事項について理解している。 【知】 ・グラフから数値的な特徴を読み取るうとしている。 【関】 ・グラフから読み取ったことを基に自分の意見をもとうとしている。 【関】 <p>↓</p> <p>観察（ワークシート） 机間指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「問答ゲーム」で習得した「主張→根拠→結文」の形式を参考にさせる。 ・他者の読み取りを参考にしつつ、増減や比率等の観点からグラフを見直させる。 ↓ ・データから読み取れることをできるだけ多く挙げさせておく。

2	<p>○トピック・センテンスを作成する。</p> <p>○クラスでの発表交流を通して、トピック・センテンスを書き改める。</p> <p>○アウトラインを作成する。</p>	<p>・前時の「主張（結論）」の中から1つ選び、トピック・センテンスを作成する。</p> <p>・各グループから1つトピック・センテンスを選び、クラスで発表し、その妥当性について検討する。</p> <p>・クラスでの発表交流を参考にして、自分のトピック・センテンスを書き改める。</p> <p>・パラグラフの基本構造に基づいてアウトラインを作成する。</p> <p style="text-align: center;">【Aアウ・Bイ】</p> <p>*留意点 ・トピック・センテンスの内容が、グラフの特徴を言い換えたりまとめたりしたものにならないようにさせる。</p>	<p>・自分の意見に基づくトピック・センテンスを作成することができる。</p> <p style="text-align: center;">【書】</p> <p>・パラグラフの構造に基づいてアウトラインを作成できる。</p> <p style="text-align: center;">【書】</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>観察（発表・ワークシート） 机間指導</p>	<p>・グラフから読み取った特徴の背景や要因について考えるように促す。</p> <p>・「主張→根拠→結文」に該当する部分を、文章ではなく項目で構成するように助言する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>・データから読み取ったことが、自分の主張を裏付ける根拠として妥当か確認させておく。</p>
3	<p>○意見のパラグラフを作成する。</p> <p>○相互評価を行う。</p>	<p>・データから読み取れることを「根拠」にして、そこから導き出される「主張（結論）」をトピック・センテンスとするパラグラフを書く。</p> <p>・各グループで相互評価を行う。</p> <p style="text-align: center;">【Bイエ】</p> <p>*留意点 ・評価者は、「形式（パラグラフ形式になっているか）」「説得力（データから読み取った内容が根拠として適切か）」「工夫度（表現や着眼点に工夫が見られるか）」というポイントで評価（記述）をする。</p>	<p>・根拠を明示して、自分の意見をパラグラフ形式で記述することができる。</p> <p style="text-align: center;">【書】</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>観察（ワークシート） 机間指導</p>	<p>・「主張→根拠→結文」の形式になるように、1文ずつでパラグラフを構成することから始めるように促す。</p>

6 第2時の学習指導案

本時の位置	2時間目（全3時間）		
本時の学習目標	<p>ア データから読み取ったことを基に自分の意見をもとうとしている。 (関心・意欲・態度)</p> <p>イ データに基づいて得られた自分の意見をトピック・センテンスとして作成できる。 (書く能力)</p> <p>ウ パラグラフの構造を理解してアウトラインを作成している。 (知識・理解)</p>		
事前の準備	<p>①本時に使用するワークシートの作成</p> <p>②前時のワークシートの点検</p>		
	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入 5分	□本時の学習目標の確認	<p>①本時の目標が、トピック・センテンスとアウトラインの作成であることを確認する。</p> <p>②前時のワークシートを基にデータの読み取りからどのような主張（意見）をもったのかについて確認する。</p>	<p>・前時のワークシートを返却する。</p> <p>・本時に使用するワークシートを配布する。</p> <p>・前時にどのような主張（意見）をもったのかについて、グループでの交流状況を机間指導により把握する。</p>
展開 40分	□トピック・センテンスの作成と発表・見直し	<p>③前時の「主張（結論）」の中から1つ選び、トピック・センテンスを作成する。</p> <p>④各グループから1つトピック・センテンスを選び、クラスで発表し、その妥当性について検討する。</p> <p>⑤発表交流の内容を踏まえて、自身のトピック・セン</p>	<p>・トピック・センテンスの内容が、グラフの言い換えやまとめにならないようにさせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>目標アに対する評価規準と評価方法</p> <p>〔規準〕</p> <p>・データから読み取ったことをもとに自分の意見をもとうとしている。</p> <p>〔方法〕 観察・机間指導</p> <p>〔状況Cの生徒への手だて〕</p> </div>

	<p>テンスを見直す。</p> <p>□アウトラインの作成</p>	<p>⑥パラグラフの基本構造に基づいてアウトラインを作成する。</p>	<p>・グループ内での交流から得られたことを参考に、自分の意見をもつように助言する。</p> <p>目標イに対する評価規準と評価方法 [規準] ・データに基づいて得られた自分の意見をトピック・センテンスとして作成できる。 [方法] 観察（発表・ワークシート）・机間指導 [状況Cの生徒への手だて] ・グラフから読み取った特徴の背景や要因について考えるように促す。</p> <p>目標ウに対する評価規準と評価方法 [規準] ・パラグラフの構造に基づいてアウトラインを作成できる。 [方法] 観察（ワークシート）・机間指導 [状況Cの生徒への手だて] ・「主張→根拠→結文」に該当する部分について、文章ではなく項目で構成するように助言する。</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>□本時のまとめと次時の学習内容の確認</p>	<p>⑦本時に作成したトピック・センテンスとアウトラインを見直す。 ⑧次時の学習内容を確認する。</p>	<p>・ワークシートをグループごとに回収する。</p>